

「みえ生と死を考える市民の会」会報

ひまわり

第2号

発行
平成11年11月11日

☆ 発足一周年記念特別講演……………	1	☆ 平成十年度勉強会の風景……………	5
☆ 第2回総会報告……………	2	☆ 声の広場……………	5
☆ ミニ知識……………	4	☆ 勉強会のお知らせ……………	6
		☆ 編集後記……………	6

発足一周年記念特別講演

アルフォンス・デーケン氏

『死とどう向き合うか』

去る6月20日、本会の発足一周年を記念して三重大学三翠ホールにおいて、記念講演会および総会を行いました。特別講演には上智大学教授アルフォンス・デーケン氏をお招きし、お話しいただきました。以下に、その講演の内容をご紹介します。

今回は、「みえ生と死を考える市民の会」発足一周年に当たるといことですが、生と死を考える、というのは今後の社会で非常に大切な役割を持つはずで

す。身近な人の死、そしてやがて100%向き合うことになる自分の死は人生におけるもっとも厳しい体験です。しかし、元気なときはあまり死について考えません。日本人は教育熱心で、上智大学の新生でもその母親たちの教育ママぶりがたいへんに目に付きますが、しかしおかしなことに、人生でもっとも厳しい

体験である死に関して教育がなされています。

中世ヨーロッパでは、死の芸術というものがあって、死は身近なものでしたが、近代に入ってから、性とともにタブー視されるようになってきました。

告知は難しい問題ですが、それは、いかに人間らしく死を迎えるか、また、いかに人間らしく生きるか、を考える契機です。死の哲学はすなわち生の哲学でもあります。

だから、死の教育と言っても、単に死を巡る知識の教育だけではありません。死あるいは生に対する価値観や感情ともかわる教育なのです。アメリカと日本での死生観の相違、自分ないし近親者の死に伴う不安・恐怖、そういう問題も死の教育の課題です。

根源にある姿勢は人間の生は動物のそれとは違うということです。ドイツでは人間の死と動物の死とは違う語を使います。動物では加齢による肉体の衰弱はそのまま生の滅びですが、人間の場合、肉体が老化しても、人間としての生がより充実しうる、ということの確信があります。

人間の死には肉体的なそのみでなく、心理的死、社会的死、文化的死といったものが考えられます。たとえば、病床にあって、訪ねてくるものもなく、誰との会話もなければそれはすなわち、肉体的には生きていても社会的には死んでいるのです。

延命といっても人間の場合この四つの死すべてについてのそれだけでなくではありません。すなわち、生命や生活の量だけでなく質においての延命でなくてはなりません。

音楽、読書、芸術、アロマセラピーなどいづれも死と生の質を高めるものであると思えます。



例えば懐かしいメロデーは美しい思い出を引き出します。患者の貴重な思い出の再体験と言えるでしょう。患者はだいたい暗いめがねで過去を見るものですが、音楽を通して過去と美しく再会することができ、さらに未来に向かって美しい展望を得ることができません。「過去は現在の宝物」「未来は現在の希望」です。かつて、厚生省の審議会で、私が告知賛成を述べたところ、事務局の人が「患者の希望を奪って良いでしょうか」と言われました。それは違うと思います。私も被告者ですが、いつでも人間は希望を見いだすものです。特に音楽は未来への希望を与えてくれます。

読書療法も良いでしょう。本は鏡の作用をします。文学作品の中に自分を投影するのです。即ち読書は自分を客観的に見ることを可能にし、安らぎを与えるのです。ある患者は、読書療法の結果、他人にいつも期待していた姿勢から、他人から自分が何を期待されるかを考える姿勢に変わった、と言います。つまりコペルニクスの転回を経験したのです。

さらにもっとも大事なのは他者とのコミュニケーションでしょう。恐ろしい孤独は、一人でいるときのそれより、たくさんいる中でコミュニケーション喪失です。告知がかえって医師や看護者、そして家族とのコミュニケーションを密にした、という例はたくさんあります。

昔ナチに捕まって三七歳の若さで死刑になっ

たある神父が、死の間際に、もしその人によって、少しでもこの世に愛と平和、光と真実がもたらされたならその人は生き甲斐があったのだ、と言って亡くなったということですが、全くその通りだと思えます。

最後に、死ぬ前の課題を五つ挙げます。
一、執着を手放すこと 二、許すこと 三、感謝の表明 四、さよならを告げる 五、自分なりの葬儀を考える。最後の五は残された



講演前に行なわれた「鈴鹿混声合唱団」による演奏風景

ものためです。ドイツのある例。新聞の死亡欄に花代をこの銀行口座に：というのがありました。ただし、そこに、これはインドネシアの子どものために使います、と書かれていました。これこそ美しいファイナルギフトではないでしょうか。(まとめ 武村)

第2回総会報告

*平成十年度活動報告

・発足記念講演会とシンポジウムを開催。

・会報「ひまわり」第1号を平成十年十月十日付けで発行。

・勉強会を3回実施。

・運営委員会は、毎月1回開催。

*平成十一年度活動計画

・第2回総会および1周年記念講演会を平成十一年六月二十日に開催。

・会報「ひまわり」第2号発行

・勉強会(十一月・一月・三月)の実施

・運営委員会は毎月1回を継続

・会の案内用パンフレットの作成

*規約の改正

【新】第6章 事務局 第13条

・本会の事務局は、津市広明町一六二―二三におく。

*推薦により平松千恵子氏、丹羽良子氏が新たに運営委員として承認された。

平成10年度決算報告

【収入の部】

項目	予算額	決算額	差額
1. 年度会費 98'4/1-99'3/31	89,000	120,000	32,000
2. 寄付金		35,510	35,510
3. 利子		79	79
4. 勉強会参加費 (会員外)		4,400	4,400
5. その他		4,442	4,442
		164,431	75,341

【支出の部】

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差額
1. 会報印刷費	50,000	59,850	△9,850
2. 通信費	20,000	11,920	8,080
3. 雑費	5,000	7,555	△2,555
4. 積み立て	5,000	0	5,000
5. 予備費	5,000	0	5,000
6. 勉強会会場費	0	21,485	△21,485
7. 勉強会雑費	0	1,169	△1,169
	85,000	101,979	△16,979

平成10年度 決算まとめ

収入合計 164,431円 支出合計 101,979円
 差引残高 62,452円

※6. 7の項目は、年度途中で追加された活動

平成11年度予算案

収入	予算額
平成10年度繰越	62,452
平成11年度年会費 (H11.5/29現在170名)	170,000
会員外勉強会参加費	0
寄付等	9,300
利息	0
合計	232,452
支出	予算額
1. 会報印刷 (6P×300部予定)	80,000
2. 勉強会 (年3回予定)	
会場費	27,000
雑費	3,000
3. 会紹介用チラシ印刷費	既出 23,625 予定 15,750
4. 通信費 (会員連絡、会報郵送等)	44,200
5. 平成11年度総会補助費	15,000
6. 平成12年度総会準備費	15,000
7. 雑費 (資料印刷用紙、封筒、文具、コピー代等)	5,000
8. 予備費	3,877
合計	232,452

平成10年度 寄付者一覧

ご氏名	寄付金
松崎 修 様	10,000
小竹 千津子 様	5,000
広岡 和子 様	1,000
武村 洋子 様	5,000
澤 孝予 様	9,300
匿名	1,000
匿名	500
運営委員会	3,710
計	35,510



二知識

緩和ケア（ホスピス）病棟って

どんなところ？

電話相談・入院相談より

藤田保健衛生大学

七栗サナトリウム

橋本 美恵子

「もしもし、実は末期がンのものです。人から教えてもらいましたが、緩和ケア病棟ってどんなところですか？」

「私どもの緩和ケア病棟にこのような電話相談が毎日のかかってくるようになります。また直接病棟へ相談においでになる方もみえます。がん末期状態でお困りの方、悩みをお持ちの方の多さを感じます。また、悩みながらも主治医に相談するのは申し訳ないと、相談できずにいらっしゃる方もあるのだと思われれます。」

また「末期なんですけど、治療の効果は数パーセントだと言われました。止めた方がいいけれど『止めて』とは言えないので、もう少しがんばってみようと思います。この治療が終わったらそちらで静養させてください」するようなお声です。そして2〜3週間後に「こちらに入院するのを楽しみにしていましたけど、実はなくなりました。相談に乗ってもらったので、これから過ごせる場所が見つかったと喜んでいました。ありがとうございます」とご家族からのご挨拶のお電話をいただいた

いたことがありました。胸が詰まる思いを抱き、お役に立てなかったことが悔やまれます。

ホスピスについては、私どもの緩和ケア病棟でもあります。渡辺正病院長が、ひまわり1号で述べさせていただいておりますが、会報をはじめご覧になる方のためにご案内させていただきます。

1、緩和ケア（ホスピス）について

がんを再発したり、治る見込みがないとわかったとき、痛みなどの余分な苦しみにあわず、その人にふさわしい生き方で最後まで生きてほしいと願って行っている医療・看護です。「生を守り、生を育む」医療の原点に根ざしたものです。三重県には当院のみで、医科系大病院では全国唯一です。

①がんの痛みやその他の不快な症状を緩和することを第一目標にしています。痛みを緩和することにより、心は次のステップに進みたいと思えるように変わることが可能になります。

②生活の場、家族・友人との交わりの場を提供します。面会は24時間できます。談話室、家族室で共に過ごしましょう。音楽療法は週に1回みんなで楽しんでいます。ペットも家族の一員として面会できます。

③インフォームド・コンセント（説明と同意）を通して患者さんの最も望まれる生き方を知り、それにあわせていく弾力性を大切にしています。疑問や聞いてみた

いことはいつでもおっしゃってください。お話し合いは随時行っています。

④ご遺族への援助、家族・遺族会を開催します。患者さんだけではなくご家族へのケアも私たちの大切な看護です。

そして、外出・外泊・在宅へ、ご希望に添うことができます。その他、ボランティアの参加を得て、手芸・料理・散歩をするなど、日常性を取り入れています。

2、その他

・医療費：保険適応
・緩和ケア外来：月木9時〜15時（院長）
火水金9時〜12時

・電話相談：月金9時〜17時
紹介状をご持参くださるとお話が順調に運びやすくなります。

3、相談窓口 連絡先

・緩和ケア担当医（外科医師3名）
・緩和ケア病棟看護婦（松本・橋本）
・医療事務（こだま・坂本）

三重県久居市大鳥町向広242

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

・電話 話：059・252・1555
・ファックス：059・252・1383

あなたとあなたのご家族の人生ですもの大切になさっていただきたいと思えます。自ら選択される勇気と、発言なさる勇気をお持ちくださることを願っております。

ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします。ご一報ください。



第1回 「日本人の死生観」 齊藤 明 先生



平成10年度勉強会の風景



第2回「がん患者さんの体験談」

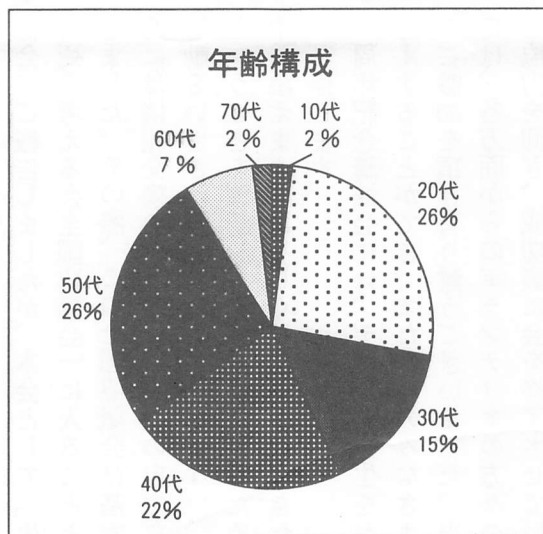
第3回「生と死のはざままで」広野光子先生 (写真中央)

第2回「がん患者さんの体験談」

* 次回の講演会にも参加したいと思う
225 (約80%)

テーマにより参加する
6 (約2%)

* 非会員の方で本会を知っている
53 (約24%)



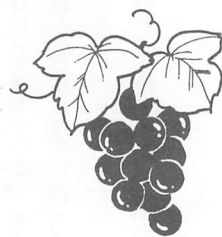
記念講演会アンケートより

* アンケート総数：283

会員：58 非会員：225

男性：37 女性：246

声の広場



*講演会に参加しての感想

- ・ユーモア、コミュニケーションの大切さを感じた。明日から笑顔で接することができるようにしたい。(40代女性)
 - ・老いにも成長があるということが発見できた。(40代女性)
 - ・死に甲斐のある人生を送りたいと思います。(60代女性)
 - ・死は怖いものだと思っていましたが、ちゃんと死に向き合っていけないといけないと思いました。(10代女性)
 - ・これからの日本に必要なことと思う。(50代男性)
 - ・死について考え直すきっかけとなりました。(20代女性)
 - ・生、特に死ということに対しての恐怖感が薄れていく感じを受けた。今の日本は特にコミュニケーション、希望ということに対し、控えめ、後ずさりしている。もっと積極的に生きることに取り組んでいかなければと思う。(50代女性)
 - ・死についての考えが変わり心から安らぎを覚えました。(70代女性)
- 一部を抜粋して掲載させていただきました。

会費納入のお願い

平成十一年度の会費納入がまだの方は、お振り込みくださるようお願い申し上げます。

事務局

勉強会のお知らせ

今年度の勉強会を以下のように開催いたします。会員の方の参加費は無料です。奮ってご参加ください。また、非会員の方も、入場料300円で参加していただけますので、関心のある方がみえましたら、お誘いください。

第1回 平成十一年十一月二十七日(土)

午後二時より三時半まで

「この命ある限り―家族の立場から―」

前川宇多子氏

場所：松阪中央病院 二階多目的ホール

(別紙参照)

第2回 平成十二年一月二十九日(土)

午後二時より三時半まで

「社会資源の活用について(仮題)」

安濃町社会福祉協議会 橋本英樹氏

場所：三重大学三翠ホール(小ホール)

第3回 平成十二年三月二十五日(土)

午後二時より三時半まで

「音楽療法(仮題)」

(講師交渉中)

場所：ポルタ久居 市民ふれあいセンター

多目的研修室

編集後記

・会報の第2号をお届けします。手探りで始まった会ですが、次第に形をなしつつあります。みなさまのご協力のおかげです。今後ともよろしく願います。

・総会でご報告しましたが、本会として「生と死を考える会全国協議会」に入ることとなりました。その際、この全国協議会は基本的には情報交換の場であり、本会の自由な活動をいささかも制約するものではない、ということを確認してあります。念のため申し添えます。よろしくご理解いただきましたと存じます。

・一周年記念講演会には、デーケン先生をお迎えすることができ、また多数のみなさまのご参加を頂き有り難うございました。当日は、各方面からのボランティアの方々のご協力を仰ぎ、成功裏に会を終了させていただきました。これをバネにしてこの会を力強いものにしていきたいと思っております。また、市民の方々にもこの会の存在をもっと知っていただくように努力していきたいと考えています。

・会報第1号は昨年十月十日発行で十並びでした。2号は十一並びにしましたが、来年は十二並び?会の運営が安定しましたら、年複数号を発行したいと思っています。

(編集委員 菅谷・久世・中西)

